

令和2年度定時制前期終業式 校長式辞（R2.10.2）

前期終業式にあたり、私から話をさせていただきます。

今年度から前・後期制の2学期制となり、前期が本日まで続きました。前後期制は、授業や学校行事の時間確保が十分できるというのが主なメリットです。とはいうものの、今年度は、始業式、入学式はできましたが、その翌週からは新型コロナウイルス感染症対策のための「一斉臨時休校」、学校が完全再開したのは6月1日からでした。その結果、授業回復のため、行事の精選や夏休みの短縮が行われ、また君たちが楽しみにしていた定通体育大会も中止となり、本当に残念な期間となってしまいました。そして7月には豪雨災害。被災した皆さんもこの中には、思い出したくもないという人もいるかも知れません。親戚・友人が被災したという生徒もいるでしょう。まだまだ復旧途上だと思いますが、皆さん、ご家族には改めてお見舞いを申し上げるとともに、ご健康を心よりお祈りします。

このような半年間は、人生の中でも本当に稀でしょう。ただ、このような過酷な状況は、水害はないにせよ、コロナ禍の中で、日本全国、いや世界中の人々が経験しています。現在、多くの人たちが、この現実を受け入れて、できることを精一杯頑張っています。もちろん人定の皆さんも同様です。ICTを使った新しい学びに挑戦したり、ボランティアに積極的に参加したり、また人定祭では、苦手な分野に敢えて挑戦した人もいと聞きました。言うなれば、逆境をプラスに変えようと頑張っているのです。「災い転じて福と為す」、「ピンチはチャンス」とか使い古された言葉がありますが、それは逆境が、人間を強くする絶好の機会だからです。ここで、逆境に強い人の4つの特徴を紹介します。

1. 過去に何度か苦境を経験している

「家が経済的に苦しく、毎日の最低限の食べ物にすら困っていた」とか「複数の大病に同時に襲われたことがある」といった人では、「あの経験に比べれば…」として、少々の逆境にはへこたれない傾向があります。

もともと、ここは紙一重の部分でもあり、「自分はなんてついていない人間なのだろう」と考え、投げやりな人生を歩んでしまう人もいますが……。

2. 様々な状況を、平素から想定している

病気や怪我、災害、困窮などは、「自分にも起こりうること」として、想定する人。そのような人は、「もしこのような状況に自分が置かれたら、どうしたら良いか」と考えるクセがついていて、実際に逆境に置かれても、冷静に対処することができるかもしれません。

「かもしれません」と断定しないのは、想像力が豊かでも、いざとなったさい実際の逆境の厳しさにうろたえてしまう人もいるからです……。

3. 根拠がなくても、自分の運や強さを信じている

「根拠のない自信」は、いざ逆境に陥ったとき「僕だけは大丈夫だ」「私は強運だからこれも乗り越えられる」と考えることは、強さにつながります。

そこに根拠がなくても別にかまわないのです。

ただ、できるわけもない事業のために多額の借金をしてしまうなど「無鉄砲」な行動にもつながりますが……。

4. もともと、人生とは逆境の連続だと考えている

野生の生き物等を考えてみると、天候変化に耐え、飢えを凌ぎ、外敵から身を守る等、その生活は正にサバイバルです。保証されていること等何もないと言っていいでしょう。人生についてもこのような考えをしている人は、多少のことでは怯ひるみません。ネガティブ思考ではなく、「苦しい人生を生き抜いてやる！それが楽しい！」というような独特の価値観を持つ人もいます。

まとめついでに、皆さんに「レジリエンス」という言葉を紹介します。聞いたことがありますか。カタカナ語が溢れる昨今ですが、この言葉は、最近よく使われていますので、ぜひ覚えておいて欲しい言葉です。

「レジリエンス」とは、困難で脅威を与える状況にもかかわらず、うまく適応する過程や能力、および適応の結果のことで、精神的回復力とも訳されます。簡単に言うと、「レジリエンス」とは、「復元力」、「復活力」または「逆境力」と言ってもいいかもしれません。

ストレスの多い現代人にはとても必要な力です。このしなやかなる力を皆さんも定時制の学校生活をとおして、是非身につけて欲しいと思っています。

結びになりますが、明日からは当初より2日短い秋休みとなります。たった3日間ですが、ゆっくり英気を養って、また10月6日に元気な顔を見せて下さい。

後期、君たちの「レジリエンス」がますます養われている姿が見られるのを心から期待しています。

以上で私からの話を終わります。